

議員氏名：浜井 直彦

議案番号：議案第30号

案件名：令和8年度二宮町一般会計予算

討論内容：

私は、議案第30号、令和8年度二宮町一般会計予算に対し反対の立場で討論を行います。

先日の本会議において当初予算案が否決されたという事実は、二宮町政の現状に対する町民の不信そのものであります。しかし、本日再提出された予算案は、総額において1点の変更もなく、内容もまた、議会の指摘を反映したとは思えない、極めて不誠実なものであります。

新庁舎建設につきましても、執行部は一貫して見直しを拒絶し続けています。洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域に隣接する場所に司令塔を置く危うさ、そして、既存の避難場所や現庁舎において非常用電源の接続確認すら怠ってきたという管理能力の欠如、これらの致命的な問題が露呈したにもかかわらず、1ミリたりとも計画を見直さないという強硬な姿勢は、町民の命を守る責任を放棄していると言わざるを得ません。立地の危険性と管理体制の甘さという二重の欠陥を放置したまま、巨額の予算執行を強行しようとする執行部の独善を断じて認めることはできません。

また、自転車安全対策についても同様であります。4月の青切符導入という重大局面に対し、広報紙僅か5行の周知で済ませるという不誠実な対応は、執行部がいかに提言をけんもほろろに扱ってきたのかを表しています。特別な時間をつくり、中学校教育現場における卒業生へのこれからの責任ある行動の実践として、私の、そして、あなたの命をも守る特別授業、またとない指導機会でした。従来よりも一歩踏み込んだ交通安全指導が必要ではないでしょうか。これらの連鎖が、今の町政への不信感の源流となっていること、そして、ずれていることを執行部は自覚すべきであります。

予算とは町民との契約であり、信頼のあかしでもあります。今回提出された修正なき同額予算、これは、議会の意思を無視し、既成事実化だけを狙う、形だけの予算案とも思えます。このような内容に賛成することは、議会のチェック機能、二元代表制の根幹を自ら放棄することにほかなりません。

執行部におかれましては、この予算案が再度歴史的な審判を受ける可能性を真摯に受け止め、言葉の定義や数字の操作に逃げることなく、町民の命と生活に真に向かい合うべきであります。以上、本案に対し反対の討論といたします。